

戦国の動乱と池田氏

No. 3

戦国の動乱

戦国時代のはじまり
応仁元年(一四六七)にぼつ
発した応仁の乱は、京都にとど
まらず全国を戦乱に巻き込むこ
とになりました。

また、室町幕府は、すでに全
国を統治する能力を失い、旧勢
力や各地に台頭してきた大小の
新興勢力の間で領地の拡大、確
保のための戦いが引き続いて起
こりました。

その中で、天文十二年(一五
四三)種子島にもたらされた鉄
砲は、またたくまに全国に普及
し、それまでの個人戦から集団
戦へと、また、何万人もの規模
の戦闘が繰り返されるようにな
りました。

鉄砲はその後、間筒(まがら)足軽筒、
土筒、馬上筒などといったそれ
ぞれの機能に見合ったものが考
案されるようになります。また
堺や雑賀(和歌山市)などが、
鉄砲の製造地として栄えます。

戦闘につぐ戦闘

池田氏は、永禄十一年(一五
六八)、信長に屈してからは、
同十二年(一五六九)正月の桂
川での戦い、同年八月但馬の山
名祐豊攻撃、同じく十月には播
磨浦上城攻略、つづいて、元亀
元年(一五七〇)、野田・福島
での三好三人衆との戦いへと駆
り立てられるという運命をたど
ります。

「賤ヶ岳合戦屏風」右隻(大阪城天守閣蔵)

また、池田氏にとってかわつ
た荒木村重は、天正二年(一五
七四)、信長から新たに摂津守
護に任命されますが、天正六年
(一五七八)に謀反を起こすま
で、同様に各地を転戦させられ
ることになりました。彼は、池
田勝正の元から身を起こしたこ
ともあり、これらの戦闘には、
多くの池田一族も加わっていた
ことが想像されます。

ところが、天正六年十月、信
長とその侵攻を阻む石山本願寺
一向宗、これと結んだ毛利との
戦闘に際し、村重は、茨木城主
中川清秀、高槻城主高山右近ら
と信長に反旗をひるがえすこと
になります。村重は、石山合戦
布陣図によると、本願寺のど
元に陣をひき、海上からの輸

送を封じる役割を果たしていま
した。また、高槻から兵庫にい
たる地域に多くの砦を築き、北
方から石山本願寺への援軍と物
資の輸送を阻止していました。

このように重要な役割を果た
していた村重の離反は、信長軍
の石山本願寺の包囲戦に大きな
打撃を与えることになりました。
しかし、歴史の流れは村重に利
をもたらず、中川清秀、高山
右近の降伏によって戦況は一転
し、天正七年(一五七九)有岡
城(伊丹市)は、ついに落城し
ます。

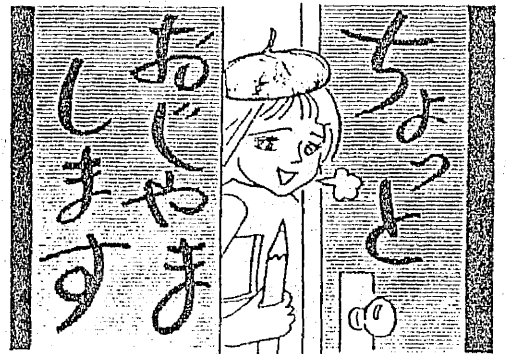
天正十年(一五八二)、明智光
秀の謀反により、信長は倒れ、
また、秀吉に従った中川清秀は
翌年四月、賤ヶ岳での合戦で討
ち死、高山右近は、天正十二年
(一五八五)、明石へ転封とな
ります。

出品資料解説

「賤ヶ岳合戦屏風」右隻(大
阪城天守閣蔵)
本屏風は、天下に有名な賤ヶ
岳の合戦を描いたものです。信
長亡き後、羽柴秀吉と柴田勝家
との後継者争いが起こります。
両者は、天正十一年(一五八三)
四月二十日、賤ヶ岳でぶつかり
ました。戦いは秀吉の大勝に終
わり、続いて柴田勝家の居城北
ノ庄城も落城し、勝家も自害し
ています。

この戦いで、世にいう「賤ヶ
岳の七本槍」として秀吉の近侍
が活躍しています。加藤清正、
加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、
糟屋武則、石川一光、片桐且元
の七名です。本図のほぼ中央に
この七名の姿が描かれています。

※特別展「戦国の動乱と池田氏」
十月二十一日～十一月二十六日、
午前九時～午後五時。(火曜、
祝日休館)
講師は岡山大学・石田善人氏、
十一月十二日(日)、午後二時から
歴史民俗資料館(51・3019)。



「きたぞ、開牛士だ、きたぞ、
さあ開牛士だ……」と、力づく、
また、高音でさわやかな歌え
が市民文化会館の大会議室に響
き渡る。
オペラ「カルメン」の中で、
あこがれの開牛士がやってきた
ときの町中の人々の喜びを歌つ
た第四幕を力強く、また、さわ
やかに合唱している。

「きたぞ、開牛士だ、きたぞ、
さあ開牛士だ……」と、力づく、
また、高音でさわやかな歌え
が市民文化会館の大会議室に響
き渡る。
オペラ「カルメン」の中で、
あこがれの開牛士がやってきた
ときの町中の人々の喜びを歌つ
た第四幕を力強く、また、さわ
やかに合唱している。

ンで選ばれました。
二十一人は、大阪教育大附属
池田小学校音楽教諭武林由香さ
ん、声楽講師の前田純江さんの
指導で、八月二十五日から毎週
水・金曜日の二回、午後六時か
ら同会館で発声、合唱、劇中で
のしぐさ、表情などの練習に励
んでいる。

十月二十日に市制五十周年を
記念して、市民文化会館で公演
されるビゼー作曲のオペラ「カ
ルメン」(全四幕)に出演する児
童合唱団を訪ねました。
同合唱団員は、小学四年から
六年生の男子二人、女子十九人
の二十一人。多くの子供たちに
広くオペラを親しんでもらおう
と池田で初めてのオーディション

きりの向川貴史君。「こんな機
会はもうないかもと自分で応募
しました」という石田景子さん。
「しゃべるような口調で早く歌
うところがあって、少しむつか
しいけど頑張る」と高橋義典君。
「一度、華やかな舞台上に立ちた
いと思っていました。最後まで



頑張ります」と麓典子さんなど
全員が晴れの舞台に心をはずま
せ懸命に練習している。
指導にあたっては武林さん
は「練習期間が短いので、子供
たちにとって大変だと思いき
でも大きな舞台に立つことで、
すばらしい体験ができると思
います」と、また前田さんは、「全
員が生きています。この
劇を通して何か一つでもつかん
でもらえたらうれしいです」と
話している。
児童合唱団員は次のみなさん。
麓典子、木曾祐子、森妙、志茂
順子、関口浩子(以
上池田小六年)、高
木雅子、福田久美、
辻弥生(以上同五
年)、川畑さとみ、
岡井康衣(以上石
橋南小六年)、久松
理沙、向川貴史、
武艶子(以上同五
年)、高橋義典(同
四年)、中谷由佳理、
石田景子、中勝末
絵、小池敦子(以
上石橋小六年)、福
田由美子(同五年)、緒方淳子(緑
丘小五年)、猪井佳奈恵(泰野小
四年)。
敬称略